研究班番号【10】

色が人に与える印象～単色と混合色から考える～

保健班:市橋　尚香、大宅　心優

要約

本研究の目的は、色によって自分の印象を操作するため、単色と混合色の与える印象を明らかにすることである。調査によって、無彩色、中性色という同じ分類の中でも異なる印象を与えるということがわかった。

1. はじめに

私達は普段、その服が周りからどう見えているかを意識しながら服を選んでいる。私たちは、服装の色によって自分の印象を操作することができるのではないかと考えて、より自分の与えたい印象に近づけるために、色が人に与える影響について調査した。そこで、SD法を用いて単色と混合色の印象についてアンケートを取った。

2. 研究手法

SD法を用いて調査を行い、その際「明るい―暗い」、「暖かい―冷たい」、「外交的―内向的」、「騒がしい―静かな」、「派手な―地味な」、「積極的―消極的」、「健康的―病気的」、「女性的―男性的」の8対を用いた。この8対の形容詞対を質問①～⑧とする。

≪実験1≫

単色(赤、青、黄、黒、白)についてSD法を用いてアンケートを行った。

≪仮説1≫

大塚ら(2017)の研究結果と類推より、赤と黄色は「明るい、暖かい、外交的、騒がしい、派手な、積極的、健康的、女性的」となり、青は「暗い、冷たい、内向的、静かな、地味な、消極的、病気的、男性的」となると考えた。また、「有彩色に関しては，有意な潜在－顕在指 標間相関が得られるのに対し，無彩色に関してはその ような関連が認められないことが繰り返し示されてきた」中村ら(2018)より、無彩色である黒と白は質問①を除いてすべて中立になると考えた。質問①に関して、黒は「暗い」、白は「明るい」になると考えた。

≪実験2≫

混合色(ピンク、えんじ、オレンジ、紫、灰色、淡黄色、水色、枯れ葉色、濃紺色、緑)について、SD法を用いてアンケートを行った。

≪仮説②≫

中村ら(2018)より、有彩色(赤、黄色、青)と無彩色(黒、白)では有彩色の方に印象が偏り、有彩色同士では互いに印象を足したり、打ち消し合ったりすると考えた。

3. 結果

≪実験1≫

赤は仮説通り「明るい、暖かい、外交的、騒がしい、派手な、積極的、健康的、女性的」となり、青も「暗い、冷たい、内向的、静かな、地味な、消極的、病気的、男性的」になった。 黄色は概ね仮説通り「明るい、暖かい、外交的、騒がしい、派手な、積極的、健康的、中立」になった。白は「明るい、中立、中立、静かな、中立、中立、中立、中立」になり、仮説とは質問④において異なった。黒は「暗い、冷たい、内向的、静かな、地味な、消極的、病気的、中立」になり、仮説と異なった。

≪実験2≫

ピンクは仮説通り「明るい、暖かい、外交的、中立、派手な、積極的、健康的、女性的」になった。濃紺色は仮説通り「暗い、冷たい、内向的、静かな、地味な、消極的、病気的、男性的」となった。オレンジは仮説通り「明るい、暖かい、外交的、騒がしい、派手な、積極的、健康的、中立」になった。緑は仮説通りすべて中立となった。えんじ色は仮説通り「暗い、中立、中立、静かな、地味な、中立、中立、女性的」となった。灰色は「暗い、冷たい、内向的、静かな、地味な、消極的、病気的、中立」となったが、質問①、⑧は仮説と異なった。枯れ葉色は質問⑤において「地味な」となったが、他は中立となり、質問⑤は仮説と異なった。。淡黄色は「明るい、暖かい、中立、中立、派手な、積極的、健康的、中立」だったが、質問③において仮説と異なった。紫は「暗い、冷たい、内向的、静かな、中立、積極的、健康的、中立」となり、質問①、②、③、④、⑥、⑦において仮説と異なった。水色は「明るい、冷たい、中立、静かな、中立、中立、病気的、中立」となり、質問①、③、⑤、⑧において仮説と異なった。

４．考察

実験1より、黒は同じ無彩色である白と大きく異なる結果となった。これは、羽成ら（2010）の論文で「白は，自己イメージとの関連において，黒や灰とは異なる特徴を持っているようである。」と述べられているように、白は無彩色の中でも異なる性質をもつものであると考えられる。実験2より、質問⑧において灰色、水色、が中立を示したことに着目する。このことから、黒と青という「男性的」を示す単色と白という「中立」を示す単色が混ざると、「中立」の印象が大きく影響すると考えられる。また、緑と紫の印象が大きく異なったのは、白と黒が同じ無彩色でありながら異なる印象を与えるのと同じように、中性色である緑と紫もまったく同じ印象を与えるわけではないのではないかと考えた。

５．結論

実験より、無彩色や中性色という一見印象が中立であるように思える色であっても、実際は偏った印象を持つものもあるとわかった。また、色の配合率による印象の変化を調べることで、どの色の印象が一番強いかなどがわかると考えられる。

６．参考文献ならびに参考Webページ

羽成隆司・高橋晋也（2010）「無彩色嗜好と自己イメージの関連」
http://id.nii.ac.jp/1454/00001359/
大塚聡子・竹村健太（2018）「服装の色に関する情報が印象形成におよぼす影響」

https://sit.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=164&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1
中村信次・野寺綾（2018）
「色に対する潜在的態度（4）－ FUMIEテストを用いた潜在的無彩色嗜好分析－」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcsaj/42/4/42_161/_pdf